サーチライト　With Pastor Jon　創世記 12 章　パート 2　1998.01.07
「アブラハム契約 / 主は待たれる」

「アブラムよ、わたしに従いさえすれば、これらの者が手に入れようとしてできなかったもの全てが、あなたに与えられる。」
まず神の国と神の義を求めなさい。
そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。（マタイ 6:33）
アブラムに与えられた召しは素晴らしいものでした。
「これをしなさい。そうすれば、あなたに地位と目的が与えられる。」
わたしはあなたを大いなる国民とし（創世記 12:2）
「あなたはアイデンティティーを得る。」
あなたの名を大いなるものとする。（創世記 12:2）
「あなたは保証を得る。わたしがあなたを守るから。」

ところで、CNN 愛好家や預言マニアの人たち、これを理解しておいて下さい。
3 節で、主は実に具体的に語っています。
わたしはあなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。（創世記 12:3）

昨日、バイブルスタディーでここに来る前にニュースを見ていたら、ちょうど、イラン大統領モハマド・ハタミがイランでインタビューを受けていました。（＊1998 年）
イランの大統領がアメリカ人に話をするのは、実に 21 年振りです。
1979 年 - 1980 年に起こったことを、まだよく覚えていますよね。
イランのアメリカ大使館敷地内にいたアメリカ人が、444 日間、人質に取られたこと。
そんなに長期にわたって人質に取られたのです。
我々は“大きなサタン”と称されて。
皆さんも当時の重苦しさを覚えているでしょう。
イラン人が我々の同胞を人質に取ってアメリカを嘲笑し、緊張状態は昨日まで続いていました。
それが昨日、イランの大統領が、「アメリカと友好関係を持ちたい。イランをアメリカのようにしたい。」と言ったのです。
アメリカ人、地政学者、世界情勢を見張っている人たちは非常に驚きました。
「イランが!? 一体、どういうこと？」
言っておきます。
常に目を開いて、思考のアンテナを高く張り巡らせておいて下さい。
なぜ、イランは変わったのか。
イランは気づいたのです。

現在（＊1998 年 1 月）、クリントン政権の二期目（＊1997.1.20 - 2001.1.20）は行き詰っています。
クリントン政権はイスラエル、ベンジャミン・ネタニヤフ首相にとてもとても、ものすごく冷たい。
なぜならクリントン政権は、引き続き西岸地区を建設することで、和平プロセスを推進しようとしているから。
数日前にアメリカとイランの関係修復が報じられるや否や、イスラエルのダヴィド・レヴィ外務大臣が 5 名の党員を伴って辞任し、現在、イスラエルは政治的に非常に混乱しています。
イスラエルに突然、問題が降りかかっているのです。
現在、クリントン政権はリクード党（＊ネタニヤフ首相の政党）を支持していません。
イツハク・ラビン首相、彼は 1995 年に暗殺されましたね。覚えていますか。
クリントン政権は以前、イツハク・ラビン首相を大変強く支持していました。

ラビンとシモン・ペレスは、“西岸地区を手放し、パレスチナ人に土地を返還する”という和平プロセスの提案者だったからです。
我々アメリカの政権もそれに賛同して「土地を返還せよ！」と。

もし、イスラエルが西岸地区を手放したら、どうなるか分かりますか？
国土は幅 14.4 ㎞になり、ヨルダンを通って分割して占領しようと狙っているあらゆる侵略に対し、軍事的に非常に弱くなる。
国土の幅が 14.4 ㎞になったイスラエルは簡単に攻撃されます。
ということで、イスラエルは混乱しており、クリントン政権は二期目が上手くいっておらず、既にネタニヤフとリクード党には冷淡なので、今がその時だと気づいたイランは突然言ったのです。
「今こそ、我々の時だ。今、アメリカ人に手を伸ばそう。」
このペルシャ国イランと、私が思うに、シリアもすぐに後に続いて、アメリカに近づいて来るでしょう。

しかし、それには代価が伴います。
そのことを絶対に忘れてはなりません。
代価とは、イスラエルに圧力をかけて、土地を手放させることへの代価です。
「アメリカよ、仲良くなろう。」「あなたはもう、大きなサタンではない。」「アメリカが好きだ。」
「アメリカのようになりたい。」と言って、イスラエルに圧力をかけている。
我々は仲間になれますか？
我々はこの罠にはまり、既に弱っているイスラエル政府に、和平プロセスを早めさせるため、様々な方向から圧力をかけているのです。

和平プロセス！
4 年前、ホワイトハウス内で彼らは握手し、その日以来、259 人のイスラエル国民がテロで殺害され、1020 人が重傷を負いました。
これをアメリカの人口比率に換算すると、13,000 人のアメリカ人が殺されたことになります。
13,000 人のアメリカ人が殺され、およそ 75,000 人のアメリカ人が重症を負う。
想像できますか。
もし 13,000 人のアメリカ人が外国人に惨殺されたら…
想像できますか。
75,000 人のアメリカ人が深刻な傷を負わされたら…
我々はどういう行動に出るだろうか。
なのに我々の国は、イスラエルに向かって「和平プロセスをもう一度協議しよう！」

和平プロセスがイスラエルにもたらしたものは、痛み、問題、流血以外、何もない。
ベンジャミン・ネタニヤフはそれを理解しています。
この時、圧倒的なイスラエル人が、彼を首相にと投票し、圧勝しました。
彼が掲げた基本的政策はただ一つ、オスロ合意の拒絶。
4 年前に握手された平和協定です。
「ジョン、それは違う。圧勝じゃなくて接戦だったんだ。」「ネタニヤフはギリギリ勝ち取ったんだ。」
YES でもあり NO でもあります。
イスラエルの全投票を数えると、それは事実でしょう。
しかし、イスラエルではアラブ人も投票します。
イスラエルのアラブ系市民の 90%、人口の大きな集団が、確実にベンジャミン・ネタニヤフに反対票を投じました。

そこで、アラブ票を差し引いて、ユダヤ系イスラエル人の票を数えると、ネタニヤフを支持する票が圧倒的になるのです。

「今日は、そんな話を聞きに来たんじゃないのに…」「なんで、そんな話をしているんだ？」
もし話が分からなくなったら、混乱したなら、もう一度最初から聞いて下さい。
寝てしまったなら、目を覚まして。
私が言いたいのはこれです。よく聞いて。
これら全てのことから言えるのは、この人々とその国に対する神の御心が、御言葉から分かるということ。
我々が、国家としてイスラエルに背を向けたり、イスラエルから離れるなら、イスラエルの敵と親しくなるなら、大変な代価を支払うことになる。
神は言いました。
「あなたを呪う者をのろう。」（創世記 12:3）
「あなたの側に立つ者を祝福する。」
私は歴史を学び、これが真実であると全く確信しています。
その国がユダヤ人をどのように扱ったか、その後、その国がどうなったかをまとめてみましょう。

イギリス。
1930 年代、大英帝国は“太陽が沈まない国”でした。
それが、1920 年代後半から 1930 年代にかけて、イギリスはユダヤ人に背を向け始めます。
その直前までは、バルフォア宣言などでユダヤ人を擁護し、彼らが自分の土地に戻ることを支援して、ユダヤ人を助けていたのに。
ところが、不気味に迫って来る戦争の恐怖から、イギリスはアラブ諸国と政治的協定を結び始め、ユダヤ人を見放してしまった。
映画“Exodos”や本を読むと、イギリスで起こった悲劇が分かるでしょう。
イギリスはユダヤ人がイスラエルの港に入ることを許さず、その結果、強制収容所やナチス・ドイツのガス室で多くが殺されたのです。
本当に悲惨でした。
その時点から、イギリスは崩壊し始め、現在、大英帝国は存在しません。
これはほんの一つの例ですが、現代史を学ぶ人は誰もが言うでしょう。
「イギリスは一体どうしたんだ!?」
皆さんも自分で調べてみて下さい。
そうすれば、“ユダヤ人に背を向けた国は呪われ、そして、ユダヤ人側に立つことを、ユダヤ人のために立ち上がることを選んだ国は祝福される”ということを見ます。

皆さんに言いますが、私は今夜、政治的な講義をしたいのではありません。
私は聖書を教える牧師です。
あなたが共和党員であろうと民主党員であろうと、何であっても構いません。
保守派、リベラル派、そんなことは問題ではない。
新しい政治の時代に向かう核心は神に関すること、つまり、イスラエルに関する問題なのです。
実際、アメリカがイスラエルに背を向けるなら、我々は大きな代価を支払うことになります。
ユダヤ人を見放したその日、我々はアメリカの後退を、はっきり目にすることになるでしょう。
1948 年、イスラエルが建国された時、アメリカはイスラエルと共に立ちました。
1948 年 5 月 14 日、アメリカが賛成する一票を投じ、イスラエル国が建てられたのです。
それ以来、我々はイスラエルの側に立ち続けて来ました。
しかし、今は明らかに背を向けています。

昨日（1998 年）イランが行ったことは、イスラエルをアメリカとの友好関係から引き離すための大掛かりな計画です。
アメリカは、この傷つき、苦しみ、分断され、困窮している小さな国に対して、「さあ、現実的になろう！」と言い、アラブ諸国側に付き、アラブとの関係を構築し始めました。
我々は自分たちの崩壊とリスクをかけてそれを行い、その代価を支払うことになるのです。

これが原則です。これが原則。
神はユダヤ人とユダヤ人国家を特別に扱われ、彼らのことを“わたしの瞳”と呼ばれました。
知恵のある人と知恵のある国家は、神の法則、神の御言葉を理解します。
わたしはあなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。（創世記 12:3）
非常に重要な御言葉です。

ここまで話を膨らませるつもりはなかったのですが、それはともかくとして…アブラムは旅立ちました。
本題に戻って来ましたよ。
アブラムは、主が告げられたとおりに出て行った。ロトも彼と一緒であった。
ハランを出たとき、アブラムは七十五歳であった。（創世記 12:4）
「ジョン、彼は 50 歳だったと言ったじゃない。」
初めに主の導きを聞いた時、彼はおよそ 50 歳だったのです。
その時、神が言ったのは、
「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、<u>あなたの父の家を離れて</u>、わたしが示す地へ行きなさい。」（創世記 12:1）
彼は出て行きました。
ただし、家族を連れて。
彼は父親を連れて行きましたが、その名には象徴的な意味があります。
父の名は 11 章にありますが、“テラ”、文字通り“遅らせる”という意味。
彼らはカルデアのウルを出て、ハランに着きました。
ハランは国境の町で、国境をまたいでバビロン、カルデアを出る前に通る最後の町です。

例えば、神が私たちに言ったとします。
「アップルゲートよ、あなた方に大いなることをしよう。メキシコシティーに行きなさい。」
私たちは「よし、行こう！」と言って、国境の町のサンディエゴに行き、そうして、そこに留まる。
これが、彼らがしたこと。
留まったのです。
なぜなら、11 章を見ると、“遅らせる”という名前の父テラがコントロールし始めたから。
テラは、その息子アブラムと、ハランの子である孫のロト（アブラムの甥です）**と、息子アブラムの妻である嫁のサライを伴い・・・ハランまで来ると、彼らはそこに住んだ。（創世記 11:31）**
どれぐらいハランにいたかというと、テラが死ぬまでの約 25 年間。
皆さん、25 年間、そこに留まったのですよ！
彼らは 25 年間を、そこで無駄にしてしまった。
使徒の働き 7:2-4 で、ステパノは「テラが死ぬまで、彼らはそこにいた」と語っています。

そもそも、アブラムはテラを連れて行ってはいけなかったのです。
彼は家族から離れなければならなかった。
彼は出たけど、完全には従わず、しり込みしました。
でも、神はそれに驚かず、アブラムを見放すことをせずにただ待ちます。

アブラムは自分たちがそこで行き詰っていたので、父親が死ぬのを待っていました。
父親が「それ以上は行かない」と言って、全ての働きも計画も 25 年間閉ざされたから。
しかし 25 年の年月が流れ、彼が死んだので、アブラムは遂に再び動き出します。

適用を説明しましょう。
あなたの周りにもこんな風に言う人がいるでしょう。
「神が何をしようとしているのか、さっぱり分からない。神は全然導いてくれないから。」
「どこに住むべきか、何をするべきか、ずっと待っているのに、主は全く導いてくれない。」
言われたことがありますか。
或いは、あなた自身がそう思っているかもしれませんね。
興味深い聖句があるのでメモして下さい。素晴らしい御言葉です。
それゆえ主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、それゆえ、あわれみを与えようと立ち上がられる。主が義の神であるからだ。（イザヤ書 30:18）
主は待っておられます。何を？
私が、アブラムが、もしかしたらあなたが、主が既に導いていたことに聞き従うことを。

つづく

ルツは言った。
「あなたを捨て、あなたから別れて帰るように、私にしむけないでください。
あなたの行かれる所へ私も行き、あなたの住まれる所に私も住みます。
あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。」（ルツ記 1:16　新改訳第 3 版）

＾＾＾

「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル 4:7
メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ
http://joncourson.com/
7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530
訳 by 木下言波
DivineUS：https://www.youtube.com/user/TheDivineUs
筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。
どうか、りょくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。